

「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査(第2回)」まとまる

(公財)消費者教育支援センター(理事長・櫻井 純子)と(公財)生命保険文化センター(代表理事・鈴木勝康)は第2回「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査」を実施しました。

この調査は、平成24年に1回目を実施し、全国の高校生の消費生活と生活設計に関する実態を明らかにすると共に、学習指導要領を踏まえた学習指導、教材開発等の一助となることを目的とするものです。

《調査結果の主なポイントは次のとおりです。》

「消費生活」に関する項目

- 授業以外の時間の過ごし方は、前回調査と比較して「マンガや雑誌を読む」「携帯電話・スマートフォンでメールやSNSをする」「友人と話をする」「家族と話をする」といった項目に変化あり。(P2)
- 欲しいものがあるとき参考にする情報の上位3項目は、「インターネット・SNS」「友達からの話」「テレビ」。(P4)
- 「契約の知識」に関する正誤問題において、インターネットに関する項目については5割台半ば～6割強の正答率。契約成立に関する項目は3割前後にとどまる(P4)。民法改正による成年年齢引下げに伴い、消費者トラブルの深刻化が懸念される。
- インターネットでの購入経験者が、前回調査と比較して約1割増加。(P5)

「生活設計」に関する項目

- 将来就きたい職業を決めている高校生は約2割。将来就きたい職業は、男子は「公務員」が最多、女子は前回調査と同様「保育士・幼稚園教諭」が最多。(P6)
- 前回調査と同様、「結婚したい」と思う高校生は、約7割、結婚希望年齢は平均25歳。(P7)
- 「将来子どもを持ちたい」と思う高校生は、前回調査と同様7割弱。子どもの希望人数は前回調査の平均2.7人から平均2.3人に減少。(P8)
- 子どもが生まれた場合の働き方について、全体では「育児休暇を取り、職場に復帰する」が5割台半ば。(P9)
- 将来の夢について保護者と「よく話す」という高校生が、前回調査と比較して増加。(P9)

詳細は、次ページ以降をご参照ください。

※本リリースは、日銀記者クラブ、文部科学省記者クラブに配布しています。

※本調査の報告書は、2月2日14:00以降に(公財)生命保険文化センターのホームページに公開いたします。

(公財)消費者教育支援センター 担当:柿野・野中
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-17-14 全国婦人会館3階
TEL03-5466-7341

(公財)生命保険文化センター 担当:高須・星
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
新国際ビル3階 TEL03-5220-8517

《主な調査結果は次のとおりです。》

I. 日常生活について

- 授業以外の時間の過ごし方は、前回調査と比較して「マンガや雑誌を読む」「携帯電話・スマートフォンでメールやSNSをする」「友人と話をする」「家族と話をする」といった項目に変化あり。

全体で回答が多かった上位3項目は、「携帯・スマホでメールやSNSをする」(75.5%)、「テレビやビデオを見る」(60.7%)、「部活動をする」(53.7%)だった。前回調査と比べて大きく変化した項目として、男子は「友人と話をする」「家族と話をする」が2割弱減少、女子は「マンガや雑誌を読む」が2割減少し、「携帯・スマートフォンでメールやSNSをする」が2割弱上昇した。

授業以外の時間の過ごし方（複数回答）＜性別・一部抜粋＞

	男子		女子	
	平成 28 年	平成 24 年	平成 28 年	平成 24 年
マンガや雑誌を読む	34.8% (+3.9%)	30.9%	35.1% (▲20.2%)	55.3%
携帯電話・スマートフォンでメールやSNSをする	65.8% (+0.5%)	65.3%	83.3% (+17.1%)	65.3%
友人と話をする	35.2% (▲18.4%)	53.6%	50.7% (+2.4%)	48.3%
家族と話をする	23.3% (▲18.9%)	42.2%	28.7% (▲0.3%)	29.0%

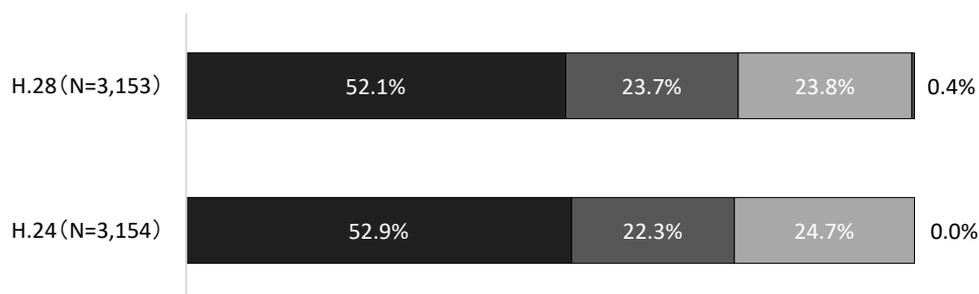
II. お小遣い、アルバイト等のお金について

- お小遣いを「定期的にもらっている」のは、前回調査と同様 5割強。1ヶ月にもらっている金額は平均で 4,944 円と前回調査より 359 円上昇。

前回調査と同様、5割強がお小遣いを「定期的にもらっている」と回答した。「その都度もらっている」も含めると、7割台半ばの高校生がお小遣いをもらっているという結果であった。

お小遣いの有無＜全体＞

■定期的にもらっている ■その都度もらっている ■もらっていない ■無回答



●前回調査と同様、お金を貯めている高校生は6割台半ば、うち目的をもってお金を貯めているのは3割弱。

「目的をもってお金を貯めている」、「目的はないが、お金を貯めている」を合わせると、前回調査と同様、6割台半ばの高校生がお金を貯めているという結果であった。しかし、「目的をもってお金を貯めている」高校生は3割弱にとどまっている。今回の調査では、男子に比べ女子の方が「目的をもってお金を貯めている」割合が若干高かった。

貯金の有無＜全体・性別＞

- 目的をもってお金を貯めている ■ 目的はないが、お金を貯めている ■ 貯めたいが、貯められない
- 貯めようと思わない ■ その他 ■ 無回答

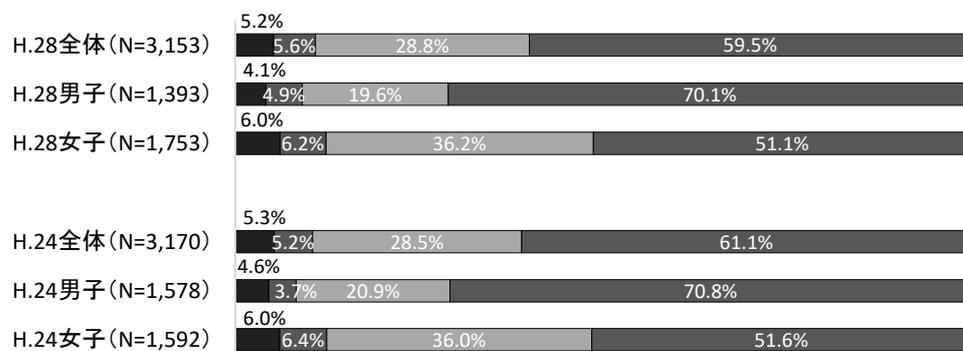


●お小遣い帳等を記録してお金の管理をしているのは、前回調査と同様 約1割。

前回調査と同様、お小遣い帳等を「つけている」と「ときどきつけている」を合わせると全体の約1割、「つけたことがない」のは約6割となった。性別では、男子の約7割が「つけたことがない」と回答したのに対し、女子は「以前つけていたが、今はつけていない」が比較的多く、5割弱がお小遣い帳等の記録を経験していた。

お小遣い帳等の記録＜全体・性別＞

- つけている ■ ときどきつけている ■ 以前あるが、今はつけていない ■ つけたことがない



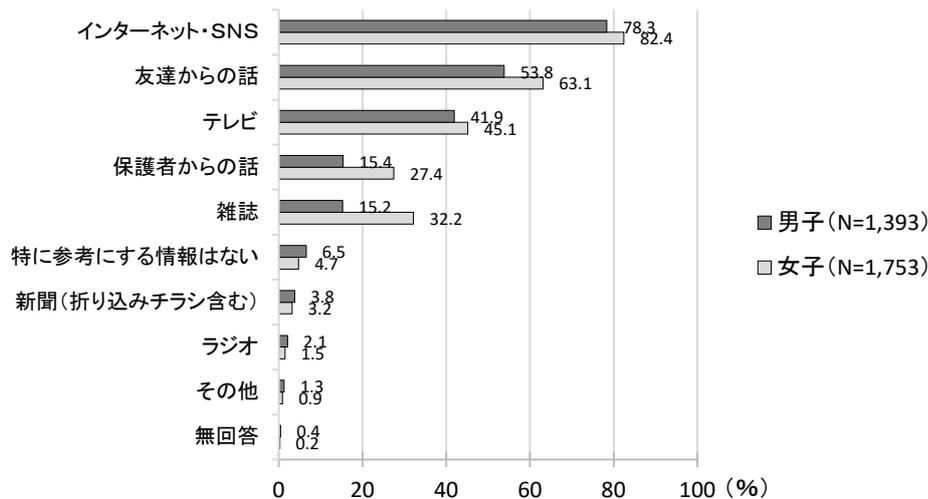
Ⅲ. 「消費・契約」について

【新規項目】

●欲しいものがあるとき参考にする情報の上位3項目は、「インターネット・SNS」「友達からの話」「テレビ」。

男女ともに上位3項目は「インターネット・SNS」「友達からの話」「テレビ」だった。男女差が見られた項目として、「保護者からの話」が1割弱、「雑誌」が2割弱、それぞれ女子が上回った。

【平成28年】欲しいものがあるとき、参考にする情報(複数回答)＜性別＞

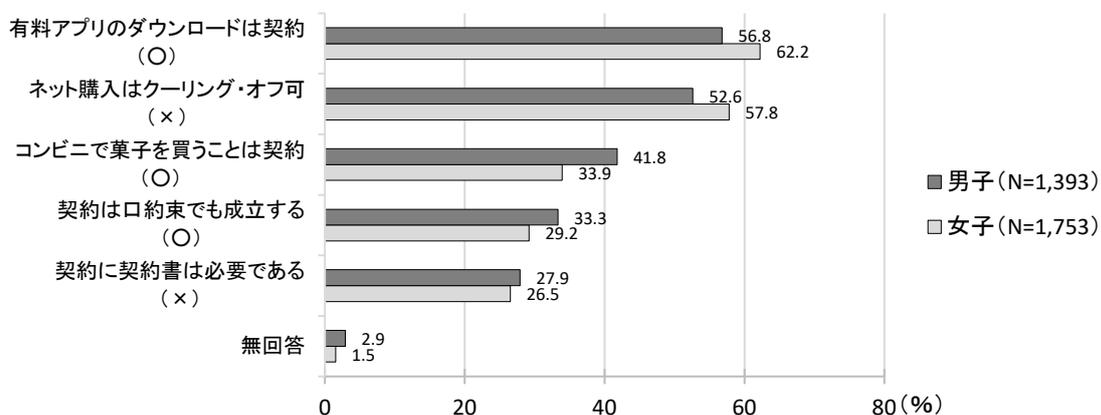


【新規項目】

●「契約の知識」に関する正誤問題において、インターネットに関する項目については5割台半ば～6割強の正答率。契約成立に関する項目は3割前後にとどまる。

「有料アプリのダウンロードは契約」「ネット購入はクーリング・オフ可」といったインターネットに関する項目は、男女ともに5割台半ば～6割強の正答率となったが、「契約は口約束でも成立する」「契約に契約書は必要である」といった契約成立に関する項目は3割前後にとどまった。民法改正による成年年齢の引き下げに伴い、消費者トラブルの深刻化が懸念される。

【平成28年】「契約の知識」正答率＜性別＞



IV. 携帯電話・スマートフォン・パソコン利用について

●携帯電話・スマートフォンの利用目的は、前回調査と比較して「SNS」が男子8割、女子9割と大きく増加。

前回調査において男女ともに約4割だった「SNS」が、男子は約8割、女子は約9割と大きく増加した。一方で「メールをするため」は前回男女ともに9割を超えて最多であったが、今回は男女ともに5割程度に減少した。男子の方が「ゲームをする」割合が高く、女子の方が「写真を撮る・加工する」割合が高かった。

携帯電話・スマートフォンの利用目的(複数回答)＜性別＞

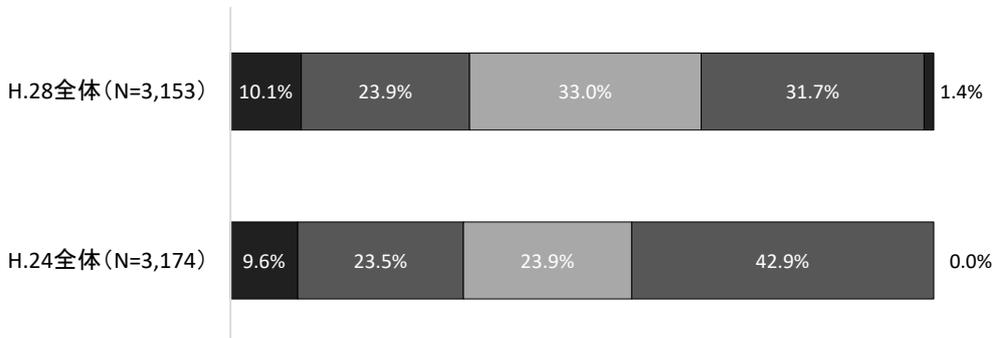
	男子		女子	
	平成 28 年	平成 24 年	平成 28 年	平成 24 年
1 位	SNS (81.1%)	メールをするため (95.5%)	SNS (91.4%)	メールをするため (98.3%)
2 位	音楽を聴く (78.2%)	通話するため (86.4%)	写真を撮る ・加工する (81.5%)	通話するため (85.9%)
3 位	ゲームをする (76.0%)	情報検索のため (54.7%)	音楽を聴く (80.4%)	情報検索のため (52.9%)

●インターネットでの購入経験者が、前回調査と比較して約1割増加。

インターネットでの購入経験に関して、「よく買う」「ときどき買う」を合わせると、前回調査と同様、3割台半ばという結果となった。前回調査と比べて、「買ったことはあるがほとんど買わない」が約1割上昇し、「買ったことがない」が約1割減少した。

インターネットでの購入経験＜全体＞

■よく買う ■ときどき買う ■買ったことあるがほとんど買わない ■買ったことがない ■無回答



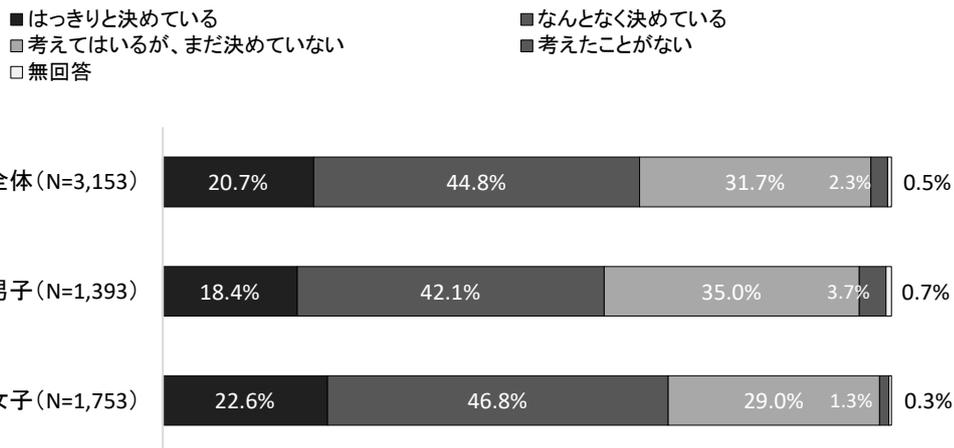
V. 将来について

【新規項目】

●将来就きたい職業を「はっきりと決めている」高校生は約2割。

将来の就きたい職業があるかは、全体の6割台半ばが「決めている（「はっきりと決めている」「なんとなく決めている）」と回答した。そのうち「はっきりと決めている」と回答したのは約2割であった。性別では、男子より女子の方が「決めている」の割合が高かった。

【平成28年】将来就きたい職業を決めているか＜全体・性別＞



●将来就きたい職業は、男子は「公務員」が最多、女子は前回調査と同様「保育士・幼稚園教諭」が最多。

男子は「公務員」が最も多く、次いで「技術者・整備士」「プログラマ・システムエンジニア」が多かった。女子は、前回調査と同様、「保育士・幼稚園教諭」が最も多かった。次いで、「看護師・歯科衛生士」、「会社員・事務員・秘書」、「接客業・営業・販売」が多かった。

【平成28年】将来就きたい職業＜性別＞

※その他を除く

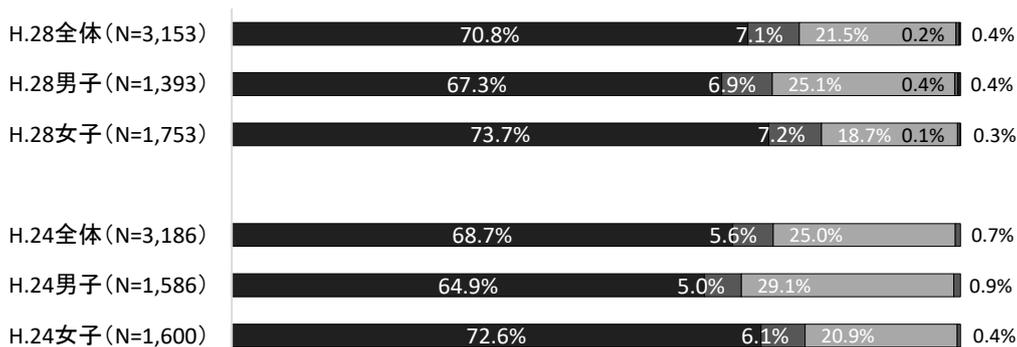
	男子	女子
1位	公務員(警察官等を除く) (15.2%)	保育士・幼稚園教諭 (18.9%)
2位	技術者・整備士 (14.0%)	看護師・歯科衛生士 (15.5%)
3位	プログラマ・システムエンジニア (12.8%)	会社員・事務員・秘書、接客業・営業・販売 (10.9%)
4位	教師 (12.1%)	調理師・栄養士 (10.0%)
5位	建築士・測量士・大工・左官等 (11.6%)	介護士・理学療法士・作業療法士 (9.7%)

●前回調査と同様、「結婚したい」と思う高校生は約7割、結婚希望年齢は平均25歳。

前回調査と同様、全体の7割強が「結婚したい」と回答した。「結婚したくない」は1割弱であった。男子に比べ女子の結婚願望が高い結果となった。

結婚願望＜全体・性別＞

■結婚したい ■結婚したくない ■よく分からない ■その他 ■無回答

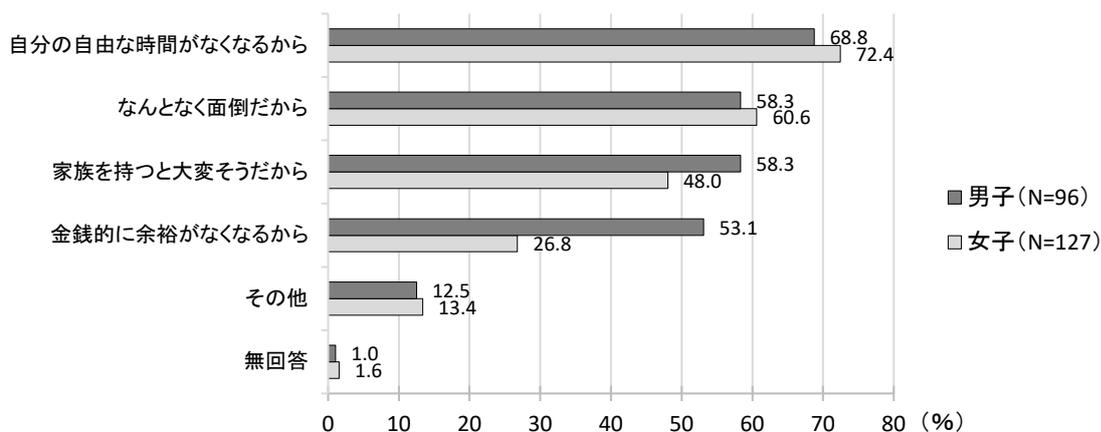


【新規項目】

●結婚したくない理由は、男女共に「自分の自由な時間がなくなるから」が最多。

「自分の自由な時間がなくなるから」が男女共に高く、次いで「なんとなく面倒だから」、「家族を持つと大変そうだから」となった。女子に比べて男子の方が「金銭的に余裕がなくなるから」の割合が高かった。

【平成28年】結婚したくない理由＜性別＞

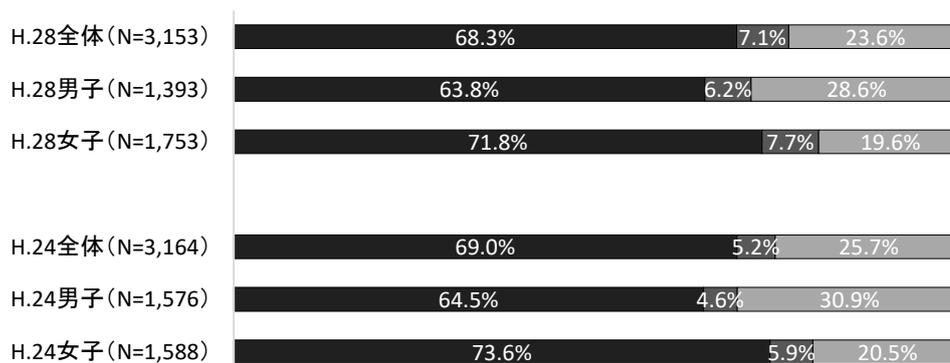


●「将来子どもを持ちたい」と思う高校生は、前回調査と同様 7割弱。子どもの希望人数は前回調査の平均 2.7人から平均 2.3人に減少。

将来子どもを持つことについて、前回調査と同様、全体の7割弱が「持ちたい」と答えた。「持ちたくない」は1割弱であった。性別では、男子に比べ女子の方が「子どもを持ちたい」傾向にあり、結婚願望と比例する結果となった。

子どもを持ちたいか＜全体・性別＞

■子どもを持ちたい ■子どもを持ちたくない ■よく分からない

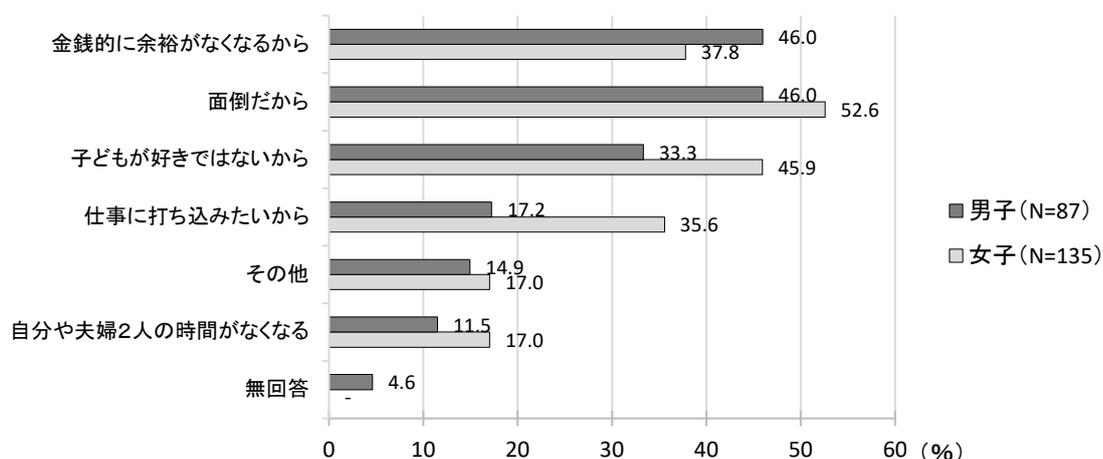


【新規項目】

●子どもを持ちたくない理由は、男女共に「面倒だから」が最多。

男女ともに「面倒だから」が最も多かった。次いで、男子は「金銭的に余裕がなくなるから」、女子は「子どもが好きではないから」が多かった。

【平成 28 年】子どもを持ちたくない理由＜性別＞



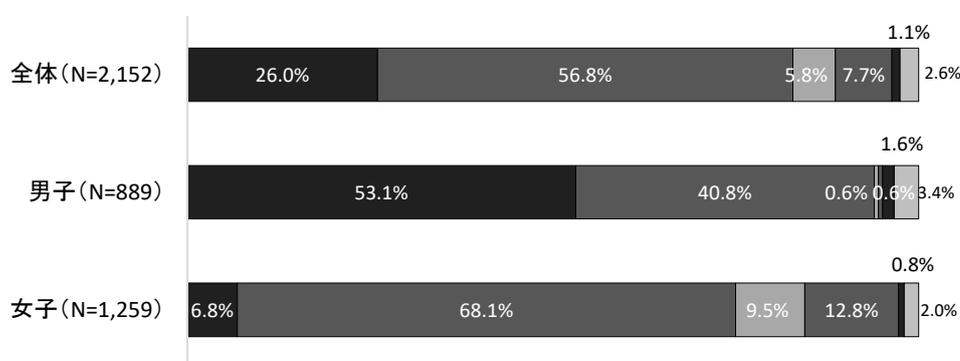
【新規項目】

●子どもが生まれた場合の働き方について、全体では「育児休暇を取り、職場に復帰する」が5割台半ば

将来子どもが生まれた場合の働き方について、全体では「育児休暇を取り、職場に復帰する」が5割台半ばと最も多く、「一旦仕事を辞め、再就職する」や「仕事を辞め、専業主婦（主夫）になる」は、1割に満たなかった。性別で見ると、男子は「育児に関係なく働き続ける」が最も多く、「育児休暇を取り、職場に復帰する」という回答も4割程度あった。女子は「育児休暇を取り、職場に復帰する」が約7割を占めた。

【平成28年】将来子どもが生まれた場合の働き方＜全体・性別＞

- 育児に関係なく働きつづける
- 育児休暇を取り、職場に復帰する
- 一旦仕事を辞め、再就職する
- 仕事を辞め、専業主婦(夫)になる
- その他
- 無回答

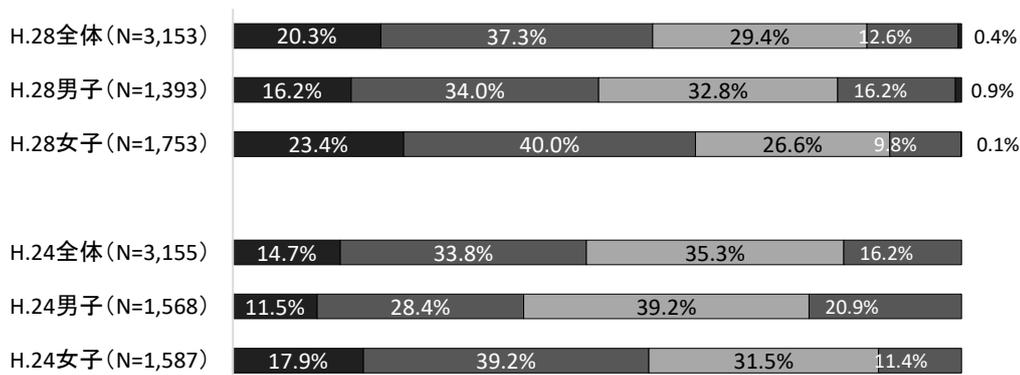


●将来の夢について保護者と「話す」という高校生が、前回調査と比較して増加。

「将来の夢」について、保護者と「よく話す」と「ときどき話す」という回答を合わせると、6割弱となり、前回調査と比較して増加した。性別で見ると、女子は6割台半ばが「話す」傾向にあるが、男子は約5割であった。

将来の夢＜全体・性別＞

- よく話す
- ときどき話す
- あまり話さない
- まったく話さない
- 無回答



<調査要領>

- (1)調査地域 全国
- (2)調査対象 高等学校の1年生から3年生
- (3)回収数 83校・3,153
- (4)調査時期 平成28年7月

<回収サンプルの主な属性>

	1年生	2年生	3年
学年(%)	57.3	35.4	7.2

	男子	女子	回答なし
性別(%)	44.2	55.6	0.2

以上